

魁皇断髪式、浅香山親方を襲名

学18回 中野 栄次

5月の大相撲夏場所は、大関の稀勢の里に6年ぶりの日本人力士優勝が期待されたが、栃煌山との決定戦を制した旭天鵬が、37歳8カ月の史上最年長で初優勝を果たした。

(旭天鵬は、7年前に帰化しているから、日本人の優勝ではあるが…)

そのちょうど1週間後に、元大関魁皇(本名:古賀博之)の『断髪式・浅香山親方襲名披露大相撲』が開催され、同郷魁皇の最後の雄姿の見納めに、両国国技館へ駆けつけた。

その時の写真を、6月3日の東京支部総会で持ち歩いていたら、一部の方から、「前回の魁皇の記事を読んだ。是非また、断髪式の模様も東京瓊林に書いてほしい」と云われ、その気になって、また投稿した次第である。

1. 突然の引退表明

昨年7月発刊の東京瓊林139号に『不世出の名大関“魁皇”』と題して、随想を寄稿した。「同じ直方市出身の魁皇が、千代の富士の1045勝という前人未到大記録を破って、どこまで記録を更新するか、私の楽しみはまだまだ続く」と結んだ。

ところが、名古屋場所の10日目(7/19)に、琴欧州に負けて、引退を表明した。

5日目に旭天鵬を破って千代の富士の大記録を抜き、通算勝ち星を1047勝まで伸ばしたが、3勝7敗となったところで、突然の引退だった。

私はその夜、新橋で飲んでいたので、ニュース速報は見なかったが、家内からのメールで知った。また、親戚で鞍手高校後輩のY君(魁皇の中学の先輩で、さいたま市在住)からも携帯に電話があり、魁皇引退の報に、「ショックやけど、あの身体でここまで頑張ったね。もうゆっくり休んで良いよね」と、二人して涙を流した。

11時過ぎに帰宅したら、東京支部の伊藤事務局長からメールが入っていた。

『明朝、原稿を印刷所に届けます。魁皇の引退表明に対し何かコメントがあれば、今晚中なら間に合います』とのことだった。

かなり酔っていたので、直截的な表現の原稿を送り、『引退記事追加』として掲載して戴いた。発刊の時期を考えると、追加記事があるとないとは大違い。本当にギリギリのタイミングだった。

同期の伊藤事務局長の配慮には大変感謝している。

翌日の引退記者会見で、魁皇は実に爽やかで、晴れ晴れとした顔をしていた。

『最高の相撲人生を歩んだ。最初は相撲が好きではなかったが、番付が上がるたびに楽しくなった。この世界に入って本当に良かった。悔いは一切ない。』と語った。いつ引退するか、親方と引き際をずっと相談していたそうだ。

その後は、髻をつけたまま、大相撲中継の解説やテレビ番組にも出演している。初めて解説者として出演した時は、元千代大海と一緒にだったが、正直どこなかつた。

花道の担当アナウンサーから、「親友の旭天鵬が『ちゃんと喋っていますか?』と冷やかしている」と、レポートがあった。(確か吉田アナだったと思う)

その後、場数を踏むごとに上手くなり、先日の夏場所では明解な解説をしていた。

4月には、NHKのバラエティ番組「鶴瓶に乾杯!」にゲスト出演。人吉市でのロケの様子が2週に亘って放映されたが、魁皇の人柄がよく出ていて高視聴率だったようだ。

2. 断髪式(一世一代の晴れ舞台)

魁皇の断髪式が、引退から10ヶ月後の5月27日、国技館で執り行われた。

私は後輩Y君たちと、魁皇の一世一代の晴れ舞台を見に、両国へ駆け付けた。在京の鞍高同期生も来ており、野球部主将のY君からは、おつまみの差し入れを沢山貰った。

魁皇を間近に見るために、この日ばかりは奮発して、西方の升席Aの7列目を確保。

デジカメを一杯にズームアップして断髪式の模様を撮りまくった。

司会は、2年前に魁皇が内閣総理大臣顕彰を受賞したときの祝賀パーティと同じくNHKのスポーツ

中継でお馴染の刈谷富士男アナだった。

本場所同様、十両の土俵入りと取り組み、幕内・横綱の土俵入りと取り組みが行われ、断髪式はその間に、厳かに執り行われた。

当日の入場者は1万人と報道されたが、1階の栈敷席は勿論、2階の椅子席までほぼ満員。魁皇ファンで埋め尽くされ、魁皇人気の高さを改めて思い知らされた。

土俵上でハサミを入れたのは、内藤後援会長（直方市商工会議所会頭）、横綱審議会のメンバー、各界の著名人、友綱部屋後援会と魁皇後援会の幹部、本人の父親と兄上、充子夫人（元女子プロレスラー）の父君、直方二中の恩師、友人等350名に上った。

西鉄観光が断髪式ツアーを企画し、直方から大型貸切バスを仕立ててやって来たという。因みに、前日の元北闘力の断髪式は230名だった、と人形町のちゃんこ料理屋の大將から聞いた。

著名人では、麻生太郎元総理、なでしこジャパンの佐々木監督、やくみつる、はなわ、同期入門の貴ノ花、曙太郎、最大のライバルだった元大関武双山等々、現役力士では横綱白鵬と同県人の大関琴奨菊の二人。大震災から復興に向けて頑張る女川町長が登場した時は、同じ栈敷席から「オナガワチョウ、ガンバレー！」との声援が飛んだ。

予定の時間を大幅に過ぎたが、終わりに近づくとつれて、「カイオー・コール」と手拍子が鳴りやまず。後輩たちと一緒に、あらんばかりの大声を張り上げて「カイオー、オツカレサマー」「カイオー、アリガトー」を連発した。

最後に友綱親方が止めバサミで大銀杏を落とした時は、館内はフラッシュの嵐で、まさに感動的な瞬間だった。鬘を落とした後、友綱親方と二人で、正面・東方・向正面・西方の順に頭を下げて挨拶した時、館内のボルテージは最高潮に達した。

私は、幸運にもこの場に立ち会えたことの喜びをしみじみと噛みしめた。

余談を一つ。指定の栈敷席は西方だったので、断髪式が真横からしか見えない。西方と正面との通路まで下りて、斜めの角度で写真を撮っていたら、後ろから「中野！いま、麻生太郎さんの奥さんが帰ったんで、正面の良い席が空いたぞ！」との声。振り向くまでもなく、鞍高柔道部で1年上のK先輩だった。千賀子夫人のお陰で、少しの時間だったが、正面から間近の写真も撮ることが出来た。

3. 魁皇の記録を更新するのは？

これからは、魁皇の1047勝の記録を誰が破るか？に、興味が持たれる。

現役でトップは旭天鵬である。夏場所に初優勝して、通算勝ち星を802勝にした。怪我が少なく、身体に艶と張りがあり、まだまだ取れそうだ。

魁皇との差は、245勝。仮に、これから毎場所全て8勝したとして、魁皇の記録を31場所（5年余）で抜くことになる。43歳まで現役で続ける可能性はあると思う。本人は、「1047勝は遠いけど、少しでも近づける様努力する」と語っているそうだ。

白鵬は、どうだろうか？27歳3カ月で、目下676勝。一人横綱の重圧に耐え、孤軍奮闘している。63連勝した時の抜群の強さは見られないが、これから毎場所12勝したとして、31場所。計算上は旭天鵬と全く同じであるが、5年後は32歳だから、怪我さえなければ、白鵬が最有力候補だろう。

記録は破られるためにあると云う。千代の富士が1045勝で引退した時もそうだった。まさか、この大記録が破られるとは誰も思わなかっただろう。魁皇の記録はいつか破られると思うが、魁皇ファンとして破られないことを願っているのも事実である。

4. 浅香山親方への期待

魁皇の様な大関は、二度と現れないだろう。前回は書いたが、5回も幕内最高優勝をしながら横綱になれなかったのは魁皇以外にいない。多分これからも出ないだろう。

「満身創痍の身体に鞭打って土俵に上がった真摯な姿勢」「左四つからの豪快な上手投げ」「常に謙虚な態度、真面目な性格、温厚な人柄」これら全てが彼の魅力だった。

魁皇は、まさしく『不世出の名大関』だと思う。

昨年の初めに発覚した八百長問題は、全国の大相撲ファンを震撼させ、相撲協会を存亡の危機に立たせた。春場所は開催中止となり、協会は大量の処分者を発表した。

処分に納得がいけないモンゴル出身の力士を中心に、力士会で5月場所をボイコットする提案がなされたそうだ。それを魁皇が説得して、未然に防いだと報じられている。

5月場所は、技量審査場所として開催された。力士の間で、魁皇への信頼がいかに大きかったかを物語るエピソードである。

その魁皇が、年寄浅香山を襲名した。記録に寄れば、浅香山親方は、初代浅香山市郎右エ門から数えて、第15代になる。部屋持ち親方は、5代目の元横綱西ノ海嘉治郎までだったそう。これからは、友綱部屋付きの浅香山親方として、陣頭指揮で力士を育成することになる。独立して、自分の部屋を持つ日もそう遠くないだろう。今度は、浅香山部屋設

立の祝賀パーティに、駆けつけようと思っている。

そして将来は、浅香山部屋のみならず、相撲協会の理事会メンバーとして、角界の改革と発展に貢献してくれることを切望している。

(6月13日 中野投稿)

